

| | |
|------|---|
| 枝並補佐 | <p>皆さん、こんにちは。定刻よりも多少早いですが、皆さんお揃いになりましたので、ただいまから平成 29 年度第一回新潟市地域と学校パートナーシップ事業運営協議会を開会いたします。</p> <p>本日の進行をさせていただきます、地域教育推進課課長補佐の枝並素子と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは本日の協議会につきましては会議録の公開のため議事を録音し、会議録の作成をさせていただきますので予めご了解いただきたいと思います。</p> <p>はじめに、担当課の地域教育推進課課長、緒方猛がご挨拶を申し上げます。</p> |
| 緒方課長 | <p>皆さんこんにちは。本日はご多用の中、平成 29 年度第一回地域と学校パートナーシップ事業運営協議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>この運営協議会は 2 年に一回、委員の皆様の改選をさせていただいておりますが、今年度は改選期ということになっております。継続して委員を担っていただく皆様、そして今年度から着任いただく皆さんお集まりになっての 10 名でのスタートということになりますが、どうかよろしくお願いいたします。</p> <p>ご存知の方も多いと思いますが、地域と学校パートナーシップ事業は政令市新潟が誕生した時の教育政策の中核としてスタートしております。平成 19 年度にスタートし、今年度は 11 年目を迎えております。新潟市教育ビジョンの目指している学・社・民の融合による教育の中核となる事業ということで進めさせていただいています。皆様のご尽力、市民の皆さんのご協力、そして学校の理解と推進の元、これまで様々な成果が現れてまいりました。昨年度は 5 万件を超えるボランティア活動、それから 95%以上の学校で実施いただいている地域貢献活動、そして約 27 万人の延べボランティア数ということで、大変大きな取組みになっております。</p> <p>ただ、拡大をめざし進めてきたこの事業ですが、10 年経ってこれから先に進んでいくときに、やはりたくさん課題が見え隠れしてきています。新たな 10 年を地域と連携を進めていくためには、新たな視点での提言が必要になってくるという時期に入ってまいりました。</p> <p>10 名の皆様からは本日忌憚のないご意見を頂戴いたしまして、今後の事業推進に努めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>では、開会のあいさつとさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> |
| 枝並補佐 | <p>会議の前に配布資料の確認をさせていただきます。事前に配布いたしましたものとして、会議の次第、委員の名簿、本日の座席表をホチキスで止めたものを一部と、こちらの第1回の冊子になっている資料一部をお送りいたしました。不足の方はいらっしゃいますか。大丈夫でしょうか。</p> <p>それでは今回の協議会は本年度から任期が始まり、第1回目の会議となりますので、皆様から自己紹介をお願いしたいと思います。伊比委員から時計回りをお願いいたします。</p> |
| 伊比委員 | <p>こんにちは。新通小学校校長の伊比宗宏と申します。四月に新通小学校に参りました。ちょっと日焼けしていますが、リゾート焼けではありません。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> |
| 春日委員 | <p>新潟市社会福祉協議会ボランティア市民活動支援センターの春日と申します。私は前回に引き続き二期目の委員ということでどうぞよろしくお願い申し上げます。</p> |
| 小島委員 | <p>今季よりお仲間させていただくことになりました。新潟市立日和山小学校の地域教育コーディネーターをしております小島ともうします。なにぶんこの会は初めてですので初心に帰りながら、皆さんの意見もたくさん聞きながら、少しでも私自身の意見も言えたらなと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> |
| 高橋委員 | <p>皆さんこんにちは。新津第二中学校校長の高橋昌也と申します。この 4 月から新津第二中学校の方に異動しました。三月までは教育総務課企画室というところにおりましたので、また色々とパートナーシップ事業について勉強させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p> |

| | |
|---------|--|
| 種村委員 | ごめんください。味方コミ協から出ております、種村といいます。昨年の 10 月から白根たこ合戦協会の会長ということでやらせてもらっております。何かあれば声をかけてもらえればありがたいと思います。よろしくお願いいいたします。 |
| 枝並補佐 | すみません、時計回りといってしまったのですが、名簿順でお願いします。 |
| 田村委員 | こんにちは。学校人事課管理主事をしております、田村篤と申します。3 年目になりました。よろしくお願いいいたします。 |
| 間嶋委員 | こんにちは。学校支援課教育課程班指導主事をしております、間嶋雅樹と申します。総合的な学習の時間を担当しております。よろしくお願いいいたします。 |
| 丸田委員 | 皆さんこんにちは。新潟医療福祉大学の丸田でございます。うちの大学は学生が一年間で約 1 千名でしょうか、延べ 1 千名を超える学生が地域で学校の子ども達と関わりを持たせていただいておりますので、今日はその観点からお邪魔をさせていただきました。よろしくお願いいいたします。 |
| 三保委員 | 中央図書館長の三保でございます。最近図書館からもコーディネーターさんの研修に参加させていただいて、顔つなぎをさせていただいて 2 年目になって、大分職員の方も理解してくるようになりました。10 月からは団体貸し出しを拡大いたします。コーディネーターさんのお部屋ありますよね、そういうところに 100 冊／月お貸しできますので、そういうことでも連携をとりたいと思います。よろしくお願いいいたします。 |
| 渡辺委員 | ごめんください。初めて参加させていただきました、立仏校区ふれあい協議会の渡辺と申します。今西区の自治協議会の方にも参加させていただいております。学校の方では教育ボランティアっていうんですかね、子どもたちのちょっとした勉強のお手伝いとか、プールの監視とかそういうので学校にかかわらせていただいています。よろしくお願いいいたします。 |
| 枝並補佐 | 続きまして、事務局の自己紹介させていただきます。 |
| 宇ノ井指導主事 | こんにちは。地域教育推進課指導主事としてこの 4 月から着任いたしました。宇ノ井修二と申します。パートナーシップ事業担当です。どうぞよろしくお願いいいたします。 |
| 阿部指導主事 | 同じく地域教育推進課の阿部修と申します。ドリームプロジェクトを担当させていただいています。パートナーシップ事業の副任です。よろしくお願いいいたします。 |
| 菅原指導主事 | こんにちは。菅原香代と申します。主にふれあいスクールを担当しております。よろしくお願いいいたします。 |
| 菊池指導主事 | 菊池裕と申します。青少年の健全育成を主に担当しております。よろしくお願いいいたします。 |
| 枝並補佐 | <p>ありがとうございます。もう一人お水を配らせていただいたのが、捧という係長になります。パートナーの支払いのを担当しておりますのでよろしくお願いいいたします。</p> <p>それでは任期始めということで委員長、副委員長の選任になりますが、こちらの資料の一枚目をめくっていただきますと、運営協議会の開催要項第四条があります。委員長、副委員長、協議会に各一名を置き、委員の互選によってこれを定めると書いてあります。皆様のご意見等お聞きしたいと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>特にないようでしたら、事務局では委員長を丸田委員に、副委員長を三保委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。皆様からご承認いただきましたので委員長を丸田委員に、副委員長を三保委員にお願いしたいと思います。それでは丸田先生、委員長席にお願いします。</p> <p>ここから議事に入りますので、この後の進行は委員長にお願いします。</p> |
| 丸田委員長 | それでは挨拶をしませんで、議事に入ります。 |

| | |
|----------------------|--|
| | <p>恐れ入りますけれども力不足かもしれませんが、新潟市の子供たちのために、地域のために一所懸命役割を担いますのでよろしくお願いします。</p> <p>では議事に入ります。平成 29 年度の事業実施概要について、事務局からご説明をお願いいたします。</p> |
| <p>宇ノ井 指導 主事</p> | <p>はい、それでは私のほうからご説明申し上げます。</p> <p>資料の 3 頁をご覧ください。平成 29 年度地域と学校パートナーシップ事業の概要ということで 3 頁以降にまとめさせていただきました。</p> <p>まず1、事業の目的についてでございます。読ませていただきます。</p> <p>「本事業は、学校がさらなる学校教育活動の充実を図るとともに、豊かなコミュニティづくりのため、地域に開かれ、地域とともに歩むことが出来るように、学校と社会教育施設、地域とのさまざまな活動を結ぶネットワークづくりや協働事業を実施し、学・社・民の融合による教育を進めることを目的とする。」というところでございます。</p> <p>2には根拠になるものとして法令等を述べさせていただきました。教育基本法以下 4 つ載せましたが、いずれにおきましても地域とか連携、協力という言葉が出てまいります。私どもが行っているこの事業はそれらにかかわるものです。</p> <p>下から二つ目に社会教育法とございます。先般この 4 月に改正されました。第 3 条第 3 項がここに載せてありますが、これに関しましては変わりはありません。この通りでございます。</p> <p>右側のページをご覧ください。新潟市教育ビジョンの第 3 期実施計画におきましても基本的な考えといたしまして、学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくりを推進し、NEXT5 の一つ目に学・社・民の融合による教育を推進しますとございます。</p> <p>3、実績の推移についてです。</p> <p>(1)の表をご覧くださいますと、平成 25 年度の右端 173 校とございます。ここで全校実施が可能となりました。全校実施がここでスタートされました。先ほどの話にもありましたように拡大で続けてまいりましたが、本年度 29 年度も 166 校の全校実施でございます。拡大から持続への方向転換がこれによってお分かりいただけるかと思えます。</p> <p>下の表でございますが、コーディネーターの人数です。平成 29 年度 8 月 1 日現在で 297 名です。兼務のものも含めております。これまで平成 29 年 4 月に入りましてから新たにコーディネーターになってくださった方が、4～5 名おります。今後も複数制の奨励によりさらに増えていくものと思われまます。</p> <p>めくっていただきまして 5 頁です。先ほどの課長の話にもございましたが、延べ事業数は平成 28 年度で 5 万 3 千件を上回りました。延べボランティア数、真ん中のグラフでございます。26 万 9 千人です。地域貢献活動につきましてはそのような数字になっております。先ほどのご説明のように 95%以上の学校で実施されました。</p> <p>6 頁 4、事業内容についてです。地域教育コーディネーターが核となって進めている当事業は 4 つを柱に推進しております。(1)がネットワーク作り、(2)が地域人材の参画と協働、(3)が学びの拠点づくり、(4)が地域への発信です。これらを通して学・社・民の融合による教育を推進いたしました。</p> <p>5、平成 28 年度の成果と課題についてです。</p> <p>まず、(1)それぞれの立場からみた成果ということで、まず①子供にとってです。学力の向上、社会性の育成、自己肯定感の伸長・醸成に寄与しているというアンケート項目の評価結果からいたしますと、肯定的な評価がそれぞれ、学力の向上では 89.6%、社会性の育成では、これは高かったです 98%でございました。自己肯定感の伸長は 96.9%と、この三点に関して非常に高い数値の評価をいただきました。</p> <p>②の地域にとってでございますが、生の声がどんどんと届いております。下のほうに鍵かっことで示させていただきましたが、「元気をもらおう」とか「生きがいになる」とか「住民同士の結びつきが強まる」という、そのような肯定的な評価を言葉でいただいております。</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>7頁です。</p> <p>③学校にとって。一つ目が地域の自然や文化など地域の良さや特色を学ぶ教育活動が行われている。そして二つ目が協働できる環境が整ってきている、ということがあげられました。</p> <p>④社会教育施設等にとっても交流や連携が年々充実してきている、という評価をいただいています。</p> <p>(2)28年度の重点的な方策からみた成果についてです。①コーディネーターの勤務環境の改善ということで先ほども申し上げました、複数制の奨励によりなんとか勤務環境を改善していこうという風に考えましたところ一定の効果を上げてきているところでございます。勤務実態調査を実施してまいりました。</p> <p>②研修の充実というところでございますが、新任コーディネーター研修の実施やアドバイザーコーディネーターの配置などにより、スキルアップを目指した研修を実施しております。</p> <p>③市民への周知の推進ということで当課指導主事阿部が担当しております、ドリームプロジェクトで実施しておるウェルカム参観日を拡充した結果、地域住民に事業を周知するきっかけとなってきたという評価をもらっています。</p> <p>④執行しやすい予算配当ということで、総枠制を取り入れたところ非常に執行しやすくなったという評価をいただいております。</p> <p>(3)今後の課題と事業推進の方向でございます。①先ほどから話題になっております、10年が経過いたしました。ここから先、どのように持続の方法を取り入れていくかということが課題になっております。</p> <p>③に教職員の事業に対する理解を一層促す必要があるという項目が入っております。実は当時のパートナーシップ事業が、教職員の理解があまり進んでいないという評価が出てまいりました。誰が評価したかという教員自身でございました。これが非常に課題であると思ひまして、数字でいいますと小学校のほうで12.3%の教員が理解が進んでいない、中学校のほうでは17.3%が理解が進んでいないという、そのような評価がありました。研修を工夫していかなければいけないと考えているところでございます。</p> <p>④地域教育コーディネーターのスキルアップを図るための情報交換の機会を保障したり研修内容を工夫したりする必要があると考えているところでございます。</p> <p>右側のページ8頁です。</p> <p>6、平成29年度の事業ということで、本年度当課のほうでこのパートナーシップ事業の重点に設定いたしました、「その学校らしさ」のための重点化と役割分担、これをメインに押し出し、何とか研修を進めていきたいと考えているところでございます。そして複数制の奨励を継続してまいります。</p> <p>(2)地域教育コーディネーターの勤務について、ここにお示した通りでございます。1時間1,200円で働いてもらっています。</p> <p>③の下に※印が3つございます。コーディネーターを複数配置する学校には年間25時間を追加配当するという追加の措置を取っておるところでございます。</p> <p>(3)事業費につきましては以下のとおりです。およそ6万円前後、5万4百円～7万5千円程度を配当しているところでございます。</p> <p>9頁には今年度の研修にかかわる一覧表を掲載いたしました。</p> <p>以上でございます。よろしく申し上げます。</p> |
| 丸田委員長 | <p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それではただいまの説明につきましてご質問なりご意見がありましたら、お願いいたします。</p> |
| 小島委員 | <p>7頁の(3)③の教職員の事業に対する理解があまりないという話をいただきましたが、アンケートを取るときに、先生方は担任を持っている先生だけでなく、例えば養教の先生であったりいろんな立場の先生方にアンケートを取っている、ほぼ、たぶん、取っていると思うんですね。そういった部分では担任を持っている先生方だけとか、そういう風に分けて集計しているのはされていないのですか？</p> |

| | |
|---------|---|
| 宇ノ井指導主事 | はい、分けてはおりません。学校職員と地域教育コーディネーターと地域の方という分け方でございました。 |
| 小島委員 | コーディネーターとしての業務がやはりコーディネーターがかかわるのは職員全部ではないじゃないですか。どちらかというとやはり教科を持っている、担任を持っている先生のほうがどうしてもつながりが強くなるので、アンケートの取り方によってもこの数字って変わってくるのかなと思うのですが、100%の先生方が理解するのはそういう意味では難しいのかなと思ひまして、ちょっとだけ言わせていただきました。 |
| 宇ノ井指導主事 | ありがとうございます。確かにおっしゃる通りだと思います。アンケートを取るときにもまた考えなければいけないと思います。ありがとうございます。 |
| 丸田委員長 | はい、他にないでしょうか。 |
| 渡辺委員 | 一点質問があるんですけど、4頁の表のところでは一番下の表で29年度の中学校のところは934人になっているんですけども、これはちょっと数字が違うんでしょうかね？ |
| 宇ノ井指導主事 | はい、申し訳ございません、ここは101でございました。申し訳ありません。ありがとうございます。 |
| 渡辺委員 | もう一点質問なんですけれども、学校支援ボランティアさんがものすごくいっぱいいらっしゃるということであれなんですけれども、6頁のところでは学校支援ボランティアの組織化をすることが望ましいということになってますけど、学校支援ボランティアさんって個人的に、個人ボランティアとして登録しているのか、グループとか組織になっているのか、そのあたりをお聞きしたいです。 |
| 宇ノ井指導主事 | 簡単に言いますと学校によって違います。学校によっても違いますし、もしかしたら学校の中でもグループとして登録して下さっている方もおられれば、個人で登録くださっている方もおられます。 このモデル数というのは簡単に言いますと、一日何人もおいでくださった、その方がまた次の時間もおいでくださった、どんどんカウントされていきます。その上での数字でございます。 お答えになりましたでしょうか。 |
| 渡辺委員 | 学校によって違うということですね。 |
| 緒方課長 | 今、宇ノ井がお話した通りで、学校によってはコーディネーターさんを中心に放射状にボランティアさんが集まる場所、それから一般公募をかけている場所、それからボランティアさんによってチームを作ってボランティアリーダーを育てていくコーディネーターさんの学校、さまざまな学校が。たぶん小島委員が今していると・・・ |
| 小島委員 | その通りで。目指しているところはグループ化とかではなく、やりやすいように。やはりこのパートナーシップ事業が始まったのが11年前なんですけれども、新潟市内いろんな地域性があるって、中央区、北区、西蒲区、それぞれの地域性があり、人材も本当にバラバラなんです。同じ中央区の中でも日和山小学校のような地域は年配の方が多くて、上所であったりそういった街中のところは通勤族が多いので、お母さんたちが個人的に入ってボランティアにかかわるということがありますので、本当にこれはこうです、って言えないような実情です。 |
| 種村委員 | 小島さんが言われたような、私と小島さんたちは最初から始めたわけなんですけれども、最初のころは担当の校長先生か教頭先生か担当職員、後の職員はほとんど耳にもしないというような形態でしたよね。それが12%や17%になったのは素晴らしいもんだなと思いますし、同じ年に始まった自治協議会なんかよりもよっぽど生命力があると思います。 今の自治協議会はなかなかうまくいってないというかあれですけど、パートナーシップ事業というのはも |

| | |
|---------|---|
| | のすごく住民の方に浸透してきているということで、私は推進課や教育委員会ががんばってるなと思っています。以上です。 |
| 丸田委員長 | そうですね、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。 |
| 田村委員 | 7 頁の(2)①に関わって、複数制を奨励するということですが、複数制が今どれくらいの割合で広まっているかというのは？ |
| 宇ノ井指導主事 | かなりの学校で複数制を取り入れてくださっているということは事実です。一人で単独でコーディネーターをやっているという学校のほうが今ではもしかすると少なくなってきています。すみません、はっきりとした数字は申し上げられません。 |
| 種村委員 | 一番最初については味方が二人で始めたんです。あとは全部一校一人ずつだったんですけどね、何とかそのようになってきたというか。責任が取りたくないから分教しようというかね。 |
| 宇ノ井指導主事 | すみません、今田村委員のご質問の意図が読み取れませんでした。 |
| 田村委員 | 持続可能な事業としてということが次の 10 年だということ鑑みると、世代交代ですとかそういった引き継ぐ人がどのくらい現場で見つけているかなと考えたのですが。 |
| 宇ノ井指導主事 | ありがとうございます。実はそれを視野に入れたうえでの措置といえますか、奨励でございます。複数制を取り入れている学校におきましてはコーディネーターの声として、「複数制でスタートしてみてもう一人には戻れないわね」という声が聞こえてきます。やはり二人で相談しながら分担していくということが実際仕事を進めるうえでもかなり有効なんだということがうかがえます。ありがとうございます。 |
| 丸田委員長 | 他にいかがでしょうか。よろしいですか。時間の関係もありますので、また少し意見交換のところでは先生方の意見を聞ければと思っております。 次に参ります。続きまして今後の取り組みについて、引き続き事務局からご説明をお願いします。 |
| 宇ノ井指導主事 | はい、お願いいたします。10 頁の資料2、4 つの柱に基づいてまた今後も進めていきます。実際の説明で使わせていただくのは 11 頁、12 頁でございます。今後の事業推進に向けた取組と課題という一覧表をご覧ください。大きく二つに分けてお話し申し上げます。 左側のページは持続可能な事業システムの構築。11 年目を迎えましてさまざまな課題が浮き彫りになってきました。それらをいくつかに分けて左側のページでお示ししてあります。右側では市民への周知、今ほどの種村委員のほうからは非常に進んでいるという評価をいただきました、大変ありがたいところでございます。ただこの市民への周知が今一つ私にもまだいけるのではないかと欲をかいているところでございまして、何とかできないかなと考えているところでございます。 まず左側のテーブルを説明いたします。 1-1「社会に開かれた教育課程」への対応といたしまして、左側にこれまでの流れといたしまして、＜中教審答申＞あるいは＜「次世代の学校・地域」創生プラン＞に基づいた考え方を載せております。私たち自身も社会に開かれた教育課程に対応していくために、事業の在り方をどのようにしていくのかというところを検討しなければいけないと考えております。 1-2 でございます。コーディネーターの服務・勤務と研修について。先ほども話題にいたしました、研修についても取り上げていきたいところではございますが、左側に 4 項目、継続内容としてあげました。新任コーディネーターを採用するに当たり、必ずアドバイスコーディネーターという方から指導者としてついでらうという、そのような措置を取っております。今日おられます小島委員からも実はアドバイスコーディネーターになっていただいているんですけれども、各区小学校 1 人、中学校 1 人のアドバイスコーディネーターを選任いたしまして、新任のコーディネーターを学校へ行って直接指導してもらったり、あるいは電話でも相談相手になってもらったりと、そのような措置を取りながらなんとかコーディネーターのスキルアップを図っているところでございます。 |

| | |
|-------|---|
| | <p>1-3 コーディネーターの多忙化解消というところがございます。地域や関係機関からのニーズが大変増加してきております。この状態をコーディネーターが対応しきれていないということも、現に起きつつあるところですが、ただ、もちろんニーズの中で学校教育現場で何とかできるものとできないもの、この辺りは精査しなければなりません、できることに関しては当然取り組んでいく必要があるかと考えています。そのため私どもで出した本年度の先ほどの話にもございますが、1-3 の一番下に書きました、「重点化」と「役割分担」ということを明確にして、どこに焦点化して活動の重点を決めていくかということ各学校の担当者に説明したうえで、コーディネーターにも説明したうえで、力点を置く活動をぜひとも決めてくださいという説明をしているところがございます。</p> <p>最後 1-4 校内体制の確立です。校内担当者の位置づけが、やや不明確な学校がございます。校務分掌への位置づけなど、何とかまい具合にさせていただけるとありがたいなと思います。</p> <p>1-4 の 4 項目挙げたうちの下から 2 番目、学校担当者会を経た校内研修の実施というところがございますが、学校担当者会を 5 月に行いました。その際各学校の校内研修で、この用紙を使ってこんな風に研修してください、という校内研修の具体例をお示しいたしました。ぜひとも全職員でしっかりと共通理解したうえでパートナーシップ事業を進めてほしいという願いに基づいた措置でございました。</p> <p>右側を簡単に説明いたします。市民への周知、広報活動についてです。先ほども申し上げましたドリームプロジェクトの中のウェルカム参観日については、資料 25 頁に今年度のウェルカム参観日の一覧表を掲載いたしました。このウェルカム参観日を通して、ぜひとも市民に周知を図っていくことを今年度も継続していきます。45 校を指定し、予算を配当したところがございます。</p> <p>2-2 マスメディアとの連携といたしまして、市報掲載の際の留意点の明確化という項目を挙げました。さまざまな学校が市報や新聞、あるいはテレビに取り上げられます。ただ学校名で紹介され、その学校の教育活動として紹介されます。つまりそこにはパートナーシップ事業という言葉が出てきていないことが見ていて非常にこう、私なんかの立場からするともったいないと感じる時があります。そこを何とかしていかなければいけないと感じておるところでございます。</p> <p>以上です。ご意見よろしくお願いたします。</p> |
| 丸田委員長 | <p>はい、ありがとうございます。では早速ご質問なりご意見をいただきます。</p> <p>また全編を通して意見交換をこのあと予定しておりますので、ただいまの事務局の説明に関する質問に焦点を合わせていただければと思います。いかがでしょうか。</p> |
| 伊比委員 | <p>1-1 のところに関わってになると思うんですが、パートナーシップ事業という名前なんですけど、現状を見ると学校支援地域本部事業と同じ学校が多いような気がします。どういうことかということ、学校が地域の方から支援してもらうためだけの事業であっては、やっぱりパートナーシップ事業本体の、その地域の活性化であったりコミュニティを作りやすくということも先ほどお話ありましたが、そういった観点からもこれから先のことを考えるとやっぱり意図的に学校が地域にできることはどんなことがあるのか、というのをはっきりしていかないと、コーディネーターさんの研修や学校の担当職員の研修や校長研修等も含めてなんですが、やはり停滞するだろうなと思っています。</p> <p>先ほどコーディネーターさんの世代交代というお話が田村委員さんからもあったんですけど、ボランティアでおいでいただく方、参加してくださる方の固定感を私の学校だけかもしれないんですが非常に固定化してきています。そうすると来た人は、来てよかったとか、子どもの笑い声だとか感想聞いてうれしかったわって言うてくださるんですけど、多くの方々は関わっていない。そうするとその部分で学校が地域の方々にできることはどんなことかなっていうのが大きな課題なのかなと私自身は思っています。</p> <p>以上です。</p> |
| 丸田委員長 | はい、コメントありますか |
| 緒方課長 | 貴重なご意見ありがとうございました。先ほどもちょっとお話が出ましたが、27 年 12 月の文科省答申の後、学校支援地域本部事業“学校支援”から“地域学校協働活動”という双方向のやりとりに国の方針が |

| | |
|-------|--|
| | <p>順次変わってきております。そのため昨年度から私どもは学校支援を受ける学校支援活動に加えて地域学校協働活動を進めましょう、ということ昨年度の校長会の研修会、それからのパートナーシップ事業の研修会でご説明をまいりました。まだまだこれまでの実績が学校支援活動がほとんどですので、その活動を重点にやっていたい学校が多いんですけれども、子どもたちが地域と関わり、地域に貢献していくなかで学ぶこともありますよね、という情報をこれからも出し続けていきたいと思っています。</p> <p>おかげさまで先ほど申し上げたように貢献活動を 95%の学校がし始めているということで、外に向かって子供たちが学校の外で学ぶ機会も地域の方に元気になってもらう機会も考えてくださっているなど思っておりますので、伊比委員のおっしゃるような方向により一層進んでいただけるとありがたいと思っています。</p> <p>ただそうしますと、学校としてもコーディネーターとしても、より多忙化という課題も出てきますので、そこをどう上手に連携を進めていくかというのは新たな課題として今取り組んでいるところでございます。</p> |
| 間嶋委員 | <p>私も同じような視点でお話しさせてもらいたいなと思っているんですが、今の学校への支援事業から協働するというようなところなんですけれども、昨日“みらいず works”の小見さんが来られまして、北海道の浦幌町で今同じような問題を解決しているというような事業をやっているというようなことで話を聞きました。そこでは地域の方、担当教諭、管理職、そして地域教育コーディネーターというものはその街にはいないんですけれども、そのように似た色んな人たちの立場が話し合っ、話し合ったことのポイントは地元の子どもたちをどう育てるかという、それぞれの思いを共有すること。なかなかそれが弱いんだらうなと思って。学校も何かの活動で地域にお願いしたり、地域と連携したりするんですけれども、その活動の狙いは共有できても、そのあとの最終的に子どもたちをこういう子どもたちに育てていきたいよね、というところが弱いんだらうなと思っています。</p> <p>2のところに書いてあるんですが、コーディネーターの研修もそうなんですけれども、コーディネーターそれから地域の方、それから担当教諭や管理職なども交えた研修というものの充実が今後必要になってくるのではないのかなという感じがしています。</p> <p>当然新潟市は広いので一気にというわけにはいかないと思うんですけれども、できることからやってくとそれが広がりを見せて行くんじゃないかなと思うので、ぜひ検討いただければと思います。</p> |
| 丸田委員長 | <p>ただいまこういう意見をいただきました。どうでしょう、そろそろ時間も 20 分あまりになりましたので、質問やら意見交換を織り交ぜながら、このあと少しディスカッションしたいと思っておりますので、そんなところはいかがでしょうか。</p> |
| 高橋委員 | <p>今ほどの間嶋委員のお話しの中に、どんな子どもに育てていくかというのをみんなで共有していく必要があると。まさにこの 3 月まで私がおりましたところでは、小中一貫教育というものを進めていこうということで今ちょうど大学の方に色んなことを取り組んでもらっています。どういったプログラムをやっていけばいいのか、共通でできるもの、あるいは独自でやるもの、それを今研究してもらっているところなんです、実は私もこの 4 月に今の新津第二中学校に参りましてから、その中学校区内の小学校 2 校と私の学校で目指す子ども像をまず最初に明確にしていこうという話をして始めたところでもあります。</p> <p>ですからそういった小中一貫教育とパートナーシップ事業というのを、一緒にしながら考えていくということが重要なんじゃないかなという風なことを今お聞きして感じました。</p> <p>ぜひそういう風に進めていきたいと思っています。よろしくお祈りします。</p> |
| 丸田委員長 | <p>そうですね、大事な論点かと思っておりますので、持続可能なシステムに向けていくときの重要な視点が今ご意見としていただけたと思います。他にいろんな視点から意見いただければと思います。</p> |
| 丸田委員長 | <p>私のほうから小島委員への質問なのですが、学校のニーズと地域のニーズとそれから間に入っている地域教育コーディネーターがとらえているニーズ、これがイコールであればバランスが取れるんでしょうけれども、学校が地域に求めているニーズがあるし、地域は地域で学校に求めているニーズがあるし、間に入っている地域教育コーディネーターとしての考え方があったりやりたいことがあったりするんで、コーディネータ</p> |

| | |
|-------|---|
| | <p>一が捉えてるニーズもあるかと思うんですが、その辺をすり合わせていくなようなニーズの捉え方と、それからニーズが少し違いがあるようであればすり合わせていくな、その辺の仕組み作りは何か工夫してるんことがありましたらお聞かせくださいませんか。</p> |
| 小島委員 | <p>まず、工夫というよりもニーズという点で考えた場合、地域からのニーズは常にあるんです。スタートと同時にある、もう待ち構えてるという感じですよ。新しい校長先生が来たらまず会いに行かなきゃとか、そこから地域の人たちのスタートなんですけれども、学校はやはり組織ですし、学校長の考えのもとに船が出港しますんで、なので学校ってスタートができるじゃないですか。ゆっくりっていついかな、きちんと一歩一歩確かめながら行くのが学校なので、どうしても地域からは毎年苛立ちを感じるらしく、そこをきちんと説明し、緩和していくのが、ここ何年もコーディネーターの最初の仕事になってるんですよ。</p> <p>実際そのニーズ、特に学校はやはり先ほど先生方皆さんおっしゃったように、どんな子どもに育てたいというのがあるんですけど、なかなか先ほど言ったように地域にはまずその視点がないんですよ。まずその視点がないから、その部分も先ほど言ったようにニーズを統一する工夫というのを、うちとしては本当だったら学校だけの先生方の研修でなくて、日和山なんて一年目の時にウェルカム参観日いただいて、そこで地域の方たちを交えてパートナーシップ事業の一番最初の説明をしたんですよ。そのときも8年も9年もパートナーシップ事業をやっている地域にも関わらず、実は地域の方たちにパートナーシップ事業って新潟市がこういう思いでスタートしたよ、全国との違いはこうだよって話を地域の方たちにしたことがなかったんですよ。あの時はウェルカム参観日をやらさせていただいて地域の方々にはパートナーシップ事業の本当に基本的な基本をお話しすることが出来たのが、すごく私にとってはあの出来事が大きかったです。</p> <p>今特に日和山の場合はこの4月新しい校舎に移り、地域も入舟地区から栄地区に移り、なので今は栄地区の皆さんにパートナーシップ事業でこうだよ、っていうのを実は一人一人会う会長さん、自治会長さんたちに伝えているっていう地道な作業を今私はやっているところです。こんな地道じゃなく、どーんとできればいいんですけども、なかなかどーんとする機会は学校としてはなかなか持てないので・・・</p> |
| 丸田委員長 | <p>その目指す姿は説明してるのは、小島さんが説明してるんですか？</p> |
| 小島委員 | <p>はい。でも校長先生のところにも町内会長さんたちは会いにいきますから、学校便りも出しますし。でも質問しやすいのがどうしてもいつもいるコーディネーターのところには地域の方は質問にくるっていうのが多いですね。</p> |
| 丸田委員長 | <p>はい、ありがとうございます。いかがでしょうか。</p> |
| 渡辺委員 | <p>今の話を聞いていて、私自身もパートナーシップ事業の具体的というかこうだったんだよというのを皆さん知らないでボランティア活動というか、学校に行ってると思うんですね。だから、「今日楽しかった、子どもといろんな話ができてよかった」とは言うけれども、今お聞きしてて基本的なところが分からないで学校に行ってるような気がしました。</p> |
| 丸田委員長 | <p>はい、大事な視点でいただいたんですが、確かにそうですね。</p> |
| 三保委員 | <p>生涯学習のほうから言えば、社会教育委員の先回の会議の中で学びの循環というのがあって、自分が学んだことを今度地域に返すと。だから地域の方々が自分の学びを子どもたちに返していくっていう、そういう循環意識を今後もっていかなくちゃダメかなと思うんですけど、その中の一つに学校が受けるだけじゃなくて、もうそろそろ学校から子どもたちを出していくような次元になっているんじゃないかっていう話が確か出てきていると思うんです。</p> <p>まだそういう視点がないような気がするんですけど、それで地域貢献になっていくんじゃないかなと思うんで・・・</p> |
| 小島委員 | <p>そういうのはもう地域貢献活動で・・・</p> |
| 三保委員 | <p>それがもうちょっと強調されてくると、広がっていくんじゃないかという気がするんですけど。ただ支援</p> |

| | |
|---------|--|
| | ばかりやっていると、中の先生の意識も変わらないんじゃないかという気がするんですけど、その辺はどうなんでしょうか。みんなやってるんだよね |
| 宇ノ井指導主事 | <p>はい、ご意見ありがとうございます。本当にその通りだと思っています。支援は先ほど伊比委員からありました、学校支援地域本部事業がそのまま学校支援、支援してもらっただけの活動になってはいないか、確かにそうだと思います。私どものほうで、研修会の度に今ほど話題になったようなことをお伝えしていることの一つに四つの活動をしっかりと組み込んでいきたいと思います。</p> <p>一つは“学校支援活動”です。これはこれまでの学校支援地域本部事業でやってきた学校支援活動。それとさきほど課長が申しあげました、“地域貢献活動”です。子どもたちが地域に貢献する。防災で貢献したり、レスキューなんかで貢献したりする、ゴミ出しをやったりするという貢献活動。三つ目が“地域交流活動”です。地域の方から意見をもらって子どもたちが考えを新たにするとか、お互いに意見を交流する。そして四つ目が“学びの拠点づくり”です。</p> <p>この四つの活動をしっかりと位置付けていくことが地域学校協働活動につながりますよ、という、これを説明はしているんですけども、まだもしかすると具体的にはわかっていないかもしれません。ただこれまでの実践の中でこれら四つをきちんと取り組んでる学校がかなりございまして、それらの画像をもとにこういう活動が貢献活動です、こういう活動が交流活動ですというところを紹介してはいるんですけども、もしかするとまだ別の方法で紹介していかないとまくいかないのかもしれないかもしれません。そんな風に感じました。ありがとうございます。</p> |
| 緒方課長 | <p>三保委員からいただいたご意見の中で、特に私たちがまだまだ十分でないなと思っていることが、社会教育施設とどう連携して学校教育のなかで社会教育施設にお願いしたり協力していただけることは何か、ということはこれから先の循環型生涯学習社会の実現という点でも必要なことだと思っていますし、社会教育の皆さんが持っているノウハウを学校が手に入れられたらより一層学びが深くなるかもしれない、というところは感じています。</p> <p>今公民館の皆さん、図書館の皆さんから盛んに学校に入っていただく活動も入り始めているので、そのようなものを組み込んでいながら三保委員のお話のように広がっていけばいいなというように考えています。</p> <p>ただやはりだいぶ学校や地域の差がありますので、そこをどう広げていくか、それを知っていただくというか、こういう方法もありますよということを知っていただく周知がまた必要なかなって考えています。</p> |
| 三保委員 | <p>そこで一つ7頁のところに28年度の成果と課題の中にやっぱり社会教育施設にとって交流とか連携が年々充実してきているっていう、ただそれだけなので、もうちょっと狙いを定めていただいて、社会教育施設としてどういう貢献ができるかっていうと、まず学校で活躍できる人を育てる、一般の地域の人を育てるというものがありますし、それから社会教育施設自体が自分たちのスキルを学校に投入するっていう、その二つがあると思うんで、もうちょっとふくらましていただいて、あなたたちこうなんかやりなさいよと言っていた方がいいんじゃないかなと思いますけど。</p> |
| 緒方課長 | ありがとうございます。 |
| 丸田委員長 | <p>良いでしょうか。二つの提言がありまして、一つは持続可能なシステムに良いものにしていくための考え方が必要だし、もう一つは市民への周知がまだまだ可能性があるのではないかとことも述べられまして、一方でマスメディアとの関連でいうと、実際取り組んだことは学校が取り組んだこととして報道されるけれども、パートナーシップ事業という輪郭の中で市民に伝わっていくかということと必ずしもそうではないという指摘もありましたので、その辺のことも考えながらご意見があればいただきたいと思います。</p> <p>そういう意味ではパートナーシップ事業は常に輪郭を持ちながらこの事業の輪郭の中で学校がこういうことをやるっていう地域がこういうことやっている、市民がこんな風な活動をしている、子どもはこんなに輝いているという風な、常に輪郭を意識しながら進めていく事業なのか、それとも最後は教育ビジョンが目指</p> |

| | |
|-------|---|
| | <p>す子どもの姿に近づいていくのであれば、その輪郭は多少おぼろげになったとしてもいろんな取り組みが集合していつくゆくはビジョンの目指す姿にたどり着けば、このフレーム自体はそんなに明確でなくてもいいということなのか、その辺はいかがなもんなんでしょう。</p> |
| 緒方課長 | <p>ありがとうございます。非常に難しいところのご質問をいただきました。</p> <p>最後に目指す姿はあくまでも新潟市教育ビジョンの学・社・民の融合による教育の部分であり、子どもたちのすこやかな成長であると思っています。</p> <p>パートナーシップ事業はそこの中核というか中心になる事業としてのフレームはあるかと思っています。そのフレームの中にはある程度の線を引かせていただかないと学校もやりにくいという部分もありますし、そのフレームの比較的大きくってその中は自由にやっていただけるという方法は考えたいと思っています。これまで各学校の主体性のある、あるいはコーディネーターの皆さんのそれぞれのカラーにあわせた取組をしているところは、そのような区分だろうなと思っています。そこに加えて非常に良いところでもあり課題にもなるのは、学校教育を基盤に置いておるんですけど、学校教育に閉じられているわけではない社会教育、生涯学習教育との関連をこの事業をもっていうところなので、そこは少しぼやけるというか、フレキシブルなところがあるかなという風に思っています。また時代やその時その時のニーズに合わせて先ほどの三保委員のお話のように、社会教育施設のかかわりをより一層広げていって全体としてもっと大きくしていこうねというような、フレーム自身はスタートラインとまた大きく変わってきております。伊比委員からお話しあったように、学校支援中心で始まってきたパートナーシップ事業ですけど、今連携協働という風にフレームが大きくなっています。そのフレーム自身も日々確認しながらやっていかなくちやならないと思っていますし、ここの運営協議会の皆様からのご意見を頂戴しながら、フレームの在り方も再度確認していかなくちやいけないかなという風に思っています。</p> |
| 丸田委員長 | <p>今の話のように全体像があり、なおかつその大きな柱としてパートナーシップ事業があり、それを支えるいくつかの事業として地域ふれあいスクールだとか事業があり、そしてそれをさらに根っここのとこで支えるために生涯学習との、あるいは社会教育との連携があり、簡単に言わないつもりなんですけど、そもそも全体像がどうなっているかなんてのは、あると良いなどは思って聞いていたんですが、身近な市民の方に説明したり学生に説明するときに、こういう構造になっているんだと、ここは今こういう太い柱のところでもみなで力を入れる必要があるので頑張ろうねと、それを支える流れとしてこういうものがあるよと、そんな風なものはあるんですけど。</p> |
| 緒方課長 | <p>いえ、イメージ図というものはございません。学・社・民ということでイメージ図はありますし、学・社・民の融合教育についてのイメージ図はあるんですけど、それと他の教育活動のかかわりやパートナーシップということについて、たぶん委員長のご指摘のようなイメージ図で満足していただけるかどうかはちょっとわからないので、ただパートナーシップ事業のイメージ図は今日ご用意しましたこのリーフレットの中に、この一番上ですね、このところにイメージ図はあるんですけども、このような形で新潟市はまとめているというぐらいなんです。</p> <p>実際教育委員会は現在 54 の施策をさまざまな形で活動しているんですけど、その 4 分の 3 に近い事業がパートナーシップ事業にかかわる、あるいは地域の連携にかかわるというさまざまな取組を行っています。その全体像という意味でのイメージ図というのは構成されていないので、今後また検討していかなくちやいけないかなと思っています。</p> |
| 小島委員 | <p>丸田先生の言いたいことが、すごくわかるんですけど、やっぱり難しいかなと私はちょっと感じていて、この 4 月におたよりを出した時にこれをしっかり使わせていただいて、地域に回覧し、基本はここ、でも日和山はこうだという、なのでそれぞれの学校でこれが教育委員会が出している基本路線だけど、日和山はもっと頑張れよとかいうのがあるので、やはりそれぞれの地域性、それぞれの物語を作っねと言われてるので、なかなかみんなそれぞれの形を持ちながらやっているんだなと思いますけれども、先ほど地域貢献とかそういう話が出たんですが、少しだけ言わせていただきたいと思いますけど、コーディネーターになっ</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>て最初のころは小学校がまず先行してやったというのもあるので、支援が大変多かったんですね。支援が多くなかなか小学生の子どもたちの地域貢献というのは難しいなと思っていたんですけども、さすがに10年以上経ち、地域貢献も実際自分たちが動いて何かをやってあげるのではなくて、話しかけ、挨拶をして、朝の挨拶を交わすだけでも実は小学生の小っちゃい子にとっては地域貢献なんですよね。地域の人たちを元気にするっていう。そういう風に柔軟な考え方に私自身も変わってきて、前は小学校のころはいっぱい支援を受けていっぱい助けてもらって中学生、大きくなったら返そうという、大きく小・中で分けて考えてたんですが、今は私の中の気持ちも変わってきて、小学生は小学生、一年生からできること、三年生でできること、六年生でできること、それぞれの学年でできることを先生とちゃんと話をしながら先生の想いを今の学年の子どもたちに何をさせたいかという思いを汲みながら、授業の中に取り込み、更に授業以外でも、例えばこの夏休み、地域の茶の間に行っておいでとか、ちょっと先生が一言いってくれるだけで、実は子どもたちは地域の茶の間に顔を出してくれるんですよね。それも立派な地域貢献かなと思っています。</p> |
| 丸田委員長 | 他にいかがでしょうか。 |
| 種村委員 | <p>前の政策官が、学・社・民と口を酸っぱく言われて、なんなのかなと思って聞いていたんですけど、それはそれで良いんですけども、この委員会としてはいわゆる地域教育推進課っていうかそういうところであって、パートナーシップ事業の推進、コーディネーターの方々の推進ということで、8区全部で年に二回くらいパートナーシップの人たちが集まる会議がありますよね。私は南区の江口所長が支援センターにいた時「種村さんちょっと来てくれるかね、こういう会議があつて」そこに行って生の声を聴くのが一番いいと思うんです。この委員の方々からある程度都合のつく日そういう会議がありますよと連絡をもらって参加してそれを聞いて、ここで話したほうが一番この委員会としてもいいんじゃないかな。生の声を聴くのが。私は少し聞いたんですが、コーディネーターの人たちのいろんな文句があるんですよ。不満というか、今はやりの取組とか。ああいうのをあちこちから誘われててなかなか出られない。パートナーシップをやっていくと出ないといけない。そういう話もありますので食中毒とか、合う合わないという問題もあるので、もうちょっとそういう意見を聞いたほうがいいんじゃないかなと思うんで、ぜひそういう会議がありますよと案内してもらってそこに行ける方は行ってもらって生の声を聴いたほうがこれが一番いいかなと思っています。</p> |
| 丸田委員長 | はい、ありがとうございました。おおよそ予定した時間がまいっているのですが、是非にという方はいましたでしょうか。 |
| 伊比委員 | <p>申し訳ありません。持続可能なのというのでいつも思うんですけど、次世代というのが私だけ違うのかもしれませんが、次世代というのは私からしてみると今の親御さんの世代のような感覚をもって、子どもを次世代という前に間に入る人が育たないと、子どもが大人になったときにはないんだろうなという感覚があります。</p> <p>具体的に言うと先ほど宇ノ井指導主事のほうからこういう法律があつてというのがありますが、国とかは全部家庭と地域を分けて書いてますよね。地域の中にない家庭がどんどん増えています。だから地域と学校パートナーシップだけでいいのかっていうのがこれから今後の課題になると思うんですね。ここにお集まりの皆さんはたくさん例を見ていらっちゃって、私よりよくご存じだと思うのですが、本当に親御さんがかかわる機会が少なくなってきました。パートナーシップも地域の方々、コーディネーターの方々が一生懸命やってくださればくださるほど、親御さんは、言葉は悪いかもしれませんが“託児所”ですよ。いろんな活動が増えれば増えるほど、子どもは参加させるけれども関わらない親御さんが増えています。例えば市P連の総会であつたり、パートナーシップに親としてどうかかわれば良いですかっていう投げかけも今後やっていただけるとありがたいなと思っていて、必ずこの日にだれか来なさいとっていうことだけじゃなくて、一年間の中でできる日にできることをご協力いただけませんか、こんな事業があるんですよっていうのを、親側の世代の方々に特に重点的にアピールしていただきたいなっていう気がします。</p> |
| 丸田委員長 | 大事な視点をいただいてきましたね。家庭というところに視点を向けていかないと、事務局じゃない市長 |

| | |
|-------|---|
| | <p>部局とも子ども未来部さんあたりと、どう市民にとって地域にとって子どもにとって必要な事業もどうしていくかという、いずれは持続可能なシステム作りというときに教育委員会サイドだけではなくて市長部局とも施策事業ともつなげていくこともいずれは必要なんではないでしょうか。早急にはいかないんでしょうけど。他にはいかがでしょうか。</p> |
| 間嶋委員 | <p>今ほどの伊比校長先生の話をお聞きしながら、例えば中学校 3 年生で 11 年前にパートナーシップ事業でコーディネーターに携わった子どもたちが今 23, 4 ですよね。そう考えると継続してその子達にきちんとやっていくことが大事なんだろうなと思いつつながら。今新潟市立で高等学校を三校抱えていますので、高等学校に対して今後どうしていくのかなというところが課題の一つになるのかなと思っています。</p> <p>学校支援課の方も相互的な学習の時間を始め昨年からは支援に入らせてもらっています。高校の先生はさほどその辺には思いはあまりなくて、実際、なかなか支援するには難しいところなんですけども、一緒にやっていけるなら良いなと思ったので話に出させてもらいました。</p> |
| 丸田委員長 | <p>はい、ありがとうございます。よろしいでしょうか。今日はなかなか意見を収斂する会にはなかなかかなりにくかったので、委員の方々からいただいた意見を事務局から大切に取扱っていただいて、今後の事業の取り組みに反映させていただきたいと思いますが、以上で了解いただけますでしょうか。</p> <p>はい、ありがとうございます。それではいったんこれで議事を終了して事務局のほうにお返しします。</p> |
| 枝並補佐 | <p>丸田委員長ありがとうございます。それでは次第の方の報告事項になります。</p> <p>平成 29 年度地域学校教育活動推進にかかる文部科学省大臣表彰について、報告をいたします。</p> |
| 緒方課長 | <p>ではその報告の前に一言お礼を申し上げさせていただきたいと思います。委員の皆様から非常のたくさん素晴らしいご意見を頂戴しました。新たな私たちは課題のための方策をいただいたなという風に思っております。学校教育に軸足をもちつつも家庭教育、社会教育、そして全体として生涯学習、循環型生涯学習社会の実現に向けた窓口としての事業の在り方もあるなということをお話させていただいております。またこのことを第二回目の運営協議会にご報告させていただくように準備をしていきたいと思っております。ありがとうございました。</p> <p>では1点ご報告をさせていただきます。先般 7 月に 29 年度地域学校教育活動推進にかかる文部科学大臣表彰について、新潟市の推薦を、ということが文部科学省の方から通知が来ております。このことにつきましては条件がございますので、その条件にあわせまして選考委員会を設けさせていただこうと思っております。例年ではありますが、パートナーシップ事業運営協議会の委員の中から一部の方になるんですが、選考委員をお願いをしまして選考させていただきたいと思っております。大変恐縮なんですけど、国からは学校地域の関係の方は外してくださいというような指示が出ておりますので、この後丸田委員、田村委員、間嶋委員、三保委員、春日委員の 5 名の皆様、引き続き選考委員ということでお願いしたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひいたします。以上です。</p> |
| 枝並補佐 | <p>以上をもちまして、平成 29 年度第1回地域と学校パートナーシップ事業運営協議会を終了いたします。本日は暑い中お集まりいただきましてありがとうございました。</p> <p>この後すぐただいま説明しました、文部科学大臣表彰選考委員会を行いますので、選考委員の方はそのままお待ちいただきたいと思います。</p> |